

## 1. モーターボート競走とは

モーターボート競走（以下「競走」という。）は、いわゆるボートレースのことで、競馬、競輪、オートレースと同じく公営競技の一つである。他の公営競技とは異なり水面で行われる競技であり、6艇のモーターボートが1周600メートルの競走水面を3周して着順を決定する。

また、日本発祥の公営競技であり、1952年4月に長崎県の大村競走場で初めて開催されて以降、現在では全国24場で熱戦が繰り広げられており、健全な大衆レジャーとして広く社会に定着している。



## 2. モーターボート競走の仕組み

### （1）競走の目的

競走は、①海事関連事業（造船関連事業・海難防止事業等）の振興、②公益事業（観光事業・体育事業等）の振興、③地方財政の改善を図ることを目的として、1951年に制定されたモーターボート競走法（以下「競走法」という。）に基づき、1952年から実施されている。

### （2）競走の運営

競走は、国土交通大臣の許可を受けて設置された、全国に24ある競走場で実施されており、都道府県又は総務大臣の指定を受けた市町村（以下「施行者」という。）が行っている。現在、施行者数は36（県1、施行組合15、市19、町1：施行者構成自治体数は105）であり、年間延べ4,400日前後の競走が開催されている。

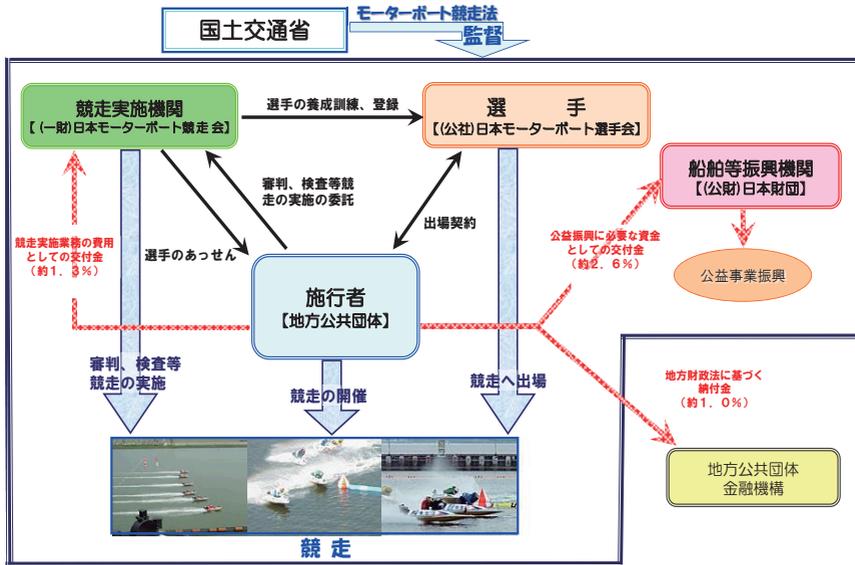
競走に出場する選手や競走に使用するボート、モーターの検査、競走の審判等、競走の競技に関する事務については、競走法に基づく競走実施機関として指定を受けた（一財）日本モーターボート競走会（以下「競走会」という。）が、施行者から委託を受けて実施している。

### （3）売上金額の推移

競走の売上金額は、1991年度の2兆2,137億円をピークにこれまで年々減少傾向にあり、近年ではピーク時の約4割程度で推移していたが、2013年度は対前年度比3.3%増

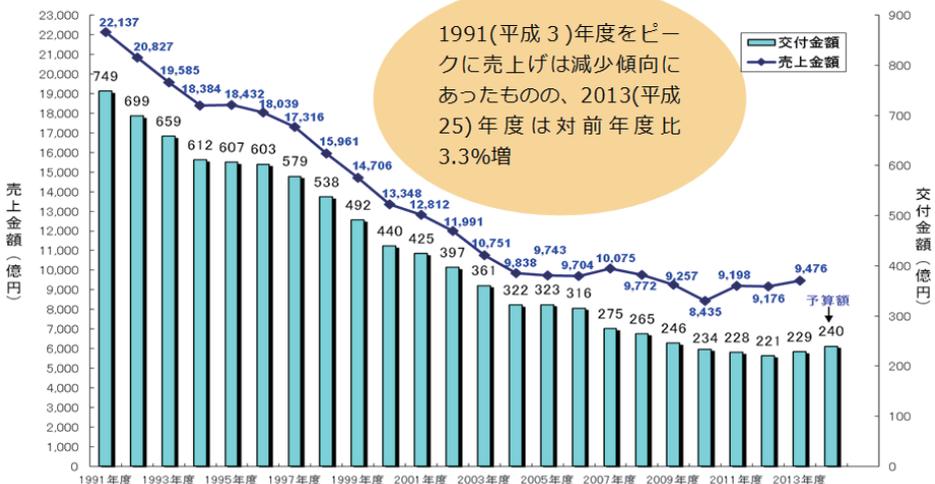
の9,476億円と2年ぶりに増加に転じ、2014年度に入っても5月末末現在で対前年度同期比4.6%増と順調に推移している。

図表Ⅱ-6-1 モーターボート競走の運営の仕組み



図表Ⅱ-6-2

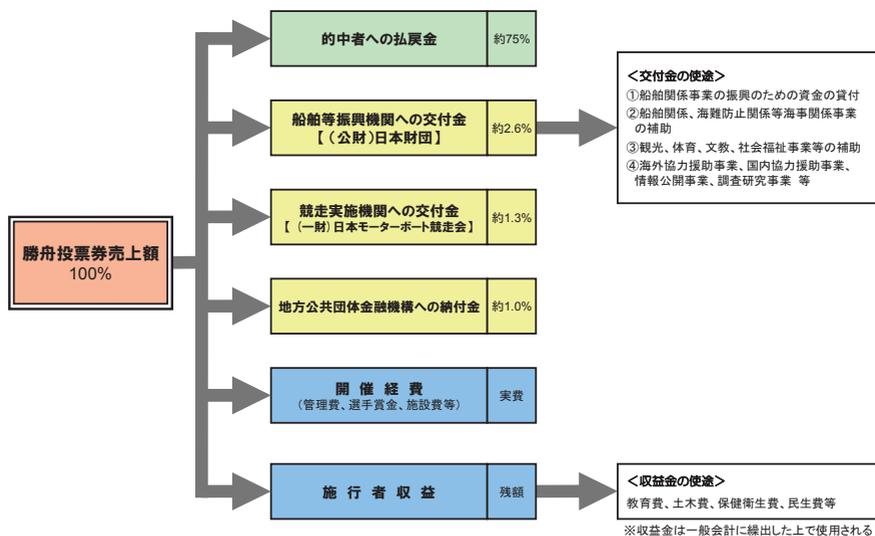
モーターボート競走の売上金額及び(公財)日本財団への交付金額の推移



(4) 売上金の配分

競走の売上金のうち、その約75%は、施行者から舟券の中者へ払い戻されることになっている。残りの約25%については、約2.6%が施行者から船舶等振興機関（競走法に基づき（公財）日本財団を指定）に交付され、海事関連事業及び公益事業の振興の原資となっている。また、約1.0%が施行者から地方公共団体金融機構へ納付され、当該機構が行う地方公共団体への貸付の金利の利下げに活用されている。さらに、約1.3%が競走の競技に関する事務の委託費として、施行者から競走実施機関（競走会）へ交付されている。これらの法定経費を売上金から差し引いた残額（売上金の約20%）から、さらに競走の開催経費等を差し引いた金額が、施行者の収益となる。

図表Ⅱ－6－3 モーターボート競走の売上金の流れ



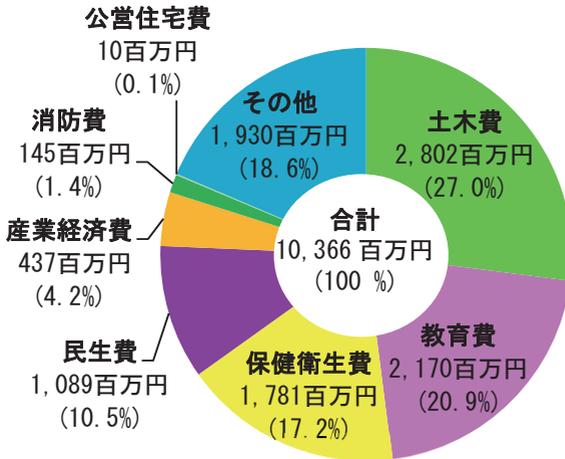
① 船舶等振興機関への交付金の使途（海事振興・公益振興）

船舶等振興機関（日本財団）は、施行者から交付金を受け入れ、造船関係事業者への資金の貸付事業、海事関連事業や公益事業への補助事業等を実施している。補助事業については、具体的には、造船技術の研究開発、海事関係人材の育成、海洋教育の推進、観光に関する調査研究、スポーツの普及振興、福祉車両の配備、障害者支援、東日本大震災復興支援などの事業に補助を行っている。こうした仕組みにより、公益性が確保され、競走法の目的である海事関連事業の振興及び公益事業の振興が図られている。

② 施行者の収益金の使途（地方財政の改善）

施行者は、収益の一部を当該施行者の一般会計に繰り出し、社会福祉、医療、教育文化、体育等に関する施策の実施に必要な経費に充てている。具体的には、学校建設・改修や図書館図書の実費等の教育費、土地区画整理事業や道路・橋・上下水道等整備事業等の土木費などに充てられている。施行者の一般会計への繰出金は、2012年度は約104億円、1952年からの累計では約3兆8,382億円となっている。こうした仕組みにより、競走法の目的の一つである地方財政の改善が図られている。

図表Ⅱ－6－4 施行者収益の使途別占有率（2012年度）



### 3. モーターボート競走事業の発展に向けた取り組み

近年の売上状況等を踏まえ、施行者、競走会等の競走に係る関係者は、モーターボート競走事業の発展に向けて様々な取り組みを進めている。海事局としても、関係者と協力して、競走の公正・安全を確保しつつ、競走の更なる活性化を図ることとしている。

#### (1) グレード競走の見直し

近年のSG競走をはじめとするグレード（重賞）競走の売上低迷を踏まえ、その魅力の向上を図るため、2013年度にグレード競走が見直された（2014年度より実施）。具体的には、①SGチャレンジカップの見直し（GⅡレディースチャレンジカップの新設・同時開催）、②SG賞金王決定戦の見直し（日数拡大、2ステージ制の導入）、③年齢30歳未満の勝率上位の男女選手によるGⅠヤングダービー並びにそのプレシリーズのGⅢイースタンヤング及びウエスタンヤングの新設などが行われた。なお、この見直しにあたって、海事局は競走実施機関（競走会）の業務規程を変更認可している。

#### (2) 選手応募資格要件の見直し

競走選手への門戸を広げて優秀な人材を確保するため、選手の養成を行う「やまと学校」の応募資格要件について、2013年度にその一部が見直された（2014年1月以降の選手募集から適用）。具体的には、身長の上限が「172cm以下」から「175cm以下」に、男子体重の上限が「55kg以下」から「57kg以下」にそれぞれ引き上げられるなどされた。なお、この見直しにあたって、海事局は競走実施機関（競走会）の業務規程を変更認可している。

#### (3) 場外舟券発売場の設置

場外舟券発売場とは、国土交通大臣の設置許可を受けて、競走場で舟券の発売等を行う施設をいう。当該施設は、2013年度に4ヶ所オープンし、うち石川県・岡山県・奈良県においては、初めてオープンすることとなった。また2014年4月は、兵庫県朝来市に当該施設がオープンした。これらにより、場外舟券発売場の総数は全国で59ヶ所となった。

#### (4) その他の取り組み

業界関係者によるその他の取り組みとして、女性や若者に対して明るく楽しいイメージでより親しみを感じてもらうため、SG競走等について、広報宣伝用として、アルファベットやカタカナの表記を用いた通称名称が導入された。また、全国の競走場・場

外舟券発売場で発売された舟券を相互に払い戻しできる全国総合払戻サービス（2012年4月開始）については、サービス対象場所が2013年度は17ヶ所、2014年4月には11ヶ所増え、全24ヶ所の競走場及び50ヶ所の場外舟券発売場で総合払戻が可能となった。さらに、競走の認知拡大のための全国広報については、2013年12月からは、6名の個性的な女性たちが演じる「ボートニャー」が競走のイメージキャラクターとして新たに設定された。

名称	競走 ロゴ	SG競走	
		通称名称	
		アルファベット表記	カタカナ表記
賞金王決定戦		<b>THE GRAND PRIX</b>	グランプリ
全日本選手権		<b>BOAT RACE DERBY</b>	ボートレース ダービー
モーターボート記念		<b>BOAT RACE MEMORIAL</b>	ボートレース メモリアル
総理大臣杯		<b>BOAT RACE CLASSIC</b>	ボートレース クラシック
笹川賞		<b>BOAT RACE ALL STARS</b>	ボートレース オールスター
グランドチャンピオン決定戦		<b>GRAND CHAMPIONSHIP</b>	グランド チャンピオン
オーシャンカップ		<b>OCEAN CUP</b>	オーシャンカップ
チャレンジカップ		<b>CHALLENGE CUP</b> <small>GIL LADIES CHALLENGE CUP</small>	チャレンジカップ

S G 競走等の通称名称導入



全国総合払戻マーク



ボートレース・新イメージキャラクター「ボートニャー」

## ～モーターボート競走の収益金・交付金って何に使われるの?～

意外なところで社会の役に立っているモーターボート競走の売上金。ここでは、私たちにとって比較的身近な「福祉車両の配備事業」と、青梅市による「地域振興事業」をご紹介します。

### ★交付金を活用した「福祉車両配備事業」★

モーターボート競走法に基づき船舶等振興機関として指定されている（公財）日本財団では、モーターボート競走の交付金を活用し、高齢者や障害者を含むすべての人々が地域で暮らすことのできる社会の実現を目指して、1994年から福祉車両配備事業を実施しています。配備する車両は、単なる送迎用の車両だけでなく、在宅にいる人の手助けをする訪問介護師や訪問看護師などが移動するための車両、障害者の就労支援を目的とした荷物運搬用のバンやトラック、障害者施設で製造したパンやクッキーなどを販売するための出張販売車など多岐にわたっています。



### あなたのまちでも活躍中

福祉車両の配備車両数は、事業を開始した1994年度の51台から年々増加し、2013年度は2,079台を配備、累計では33,000台を超えました。また、福祉車両配備事業に係る助成金総額は500億円を超え、現在では全47都道府県で福祉車両が活躍中です。みなさんも、日本財団のマークが入った福祉車両を目にしたことがあるのではないのでしょうか。なお、2013年度からは、従来の緑のマークからデザインを一新し、カラフルに生まれ変わりました。



### 福祉車両助成実績の推移

年度	1994年度	1995～ 2011年度	2012年度	2013年度	合計
台数	51	29,203	1,980	2,079	33,313

『助成先団体・利用者の方の声』

- ・「カラフルなデザインで利用者さんにも喜ばれています。送り迎えはもちろん、花見やドライブにも楽しく活用したい。」(助成先団体)
- ・「買い物にもすぐ行ける」、「快適」、「乗り心地がいい」(利用者)

海外で生まれ変わる福祉車両

2007年からは、海外の医療・福祉の向上のため、日本での役割を終えたものの、まだ走行可能な福祉車両を外国に寄贈する事業が実施されており、これまでペルーやミャンマーなどに約300台が寄贈されています。緊急医療体制の整備が遅れており、救急車が不足しているミャンマーでは、救急車に改装されて使用されるケースもあります。



★収益金を活用した、青梅市の「地域振興事業」★

青梅市はボートレース多摩川の施行者の一つです。青梅市にある御岳渓谷はカヌーのメッカとして広く知られており、2013年度には「第68回国民体育大会・カヌー競技会」が同市で開催されました。その際に建設された競技本部の施設にはモーターボート競走の収益金の一部が役立てられています。国体終了後も、2014年4月からは「青梅市御岳交流センター」としてリニューアルオープンし、観光情報や山岳情報の発信、スポーツ・レクリエーション活動の促進や地域の活性化を図るための拠点となりました。週末になると、御岳渓谷でカヌーを楽しむ人や、御岳山への行楽客などに多く利用されています。



交付金・収益金を活用した他の事業は、僕のHP([www.teichan.jp/](http://www.teichan.jp/))でも紹介してるよ！  
「ていちゃん」で検索！検索！

ボートレース社会貢献活動PR・  
イメージキャラクター「ていちゃん」



# 蒲郡 篇



# 全国 競走場

**概要：**愛知県蒲郡市にある、1955年に開業した全国で23番目のボートレース場。2006年度から、最終レースを20時以降に開始するナイターレースのみを開催。2014年4月26日にスタンドをリニューアルオープンした。

## 設備



新スタンド外観

施設のリニューアルは開所以来初めてとなる。新スタンドは海の街「蒲郡」を連想させるヨットの帆をモチーフにした。バリアフリーや完全分煙化を行って、社会や地域との関わりを大切にしている。また、ナイターレースを最大限に楽しむことのできる「ムーンライトシート」や迫力満点の一マーク攻防戦を間近で見られる「スプラッシュゾーン」を新設。

キャッシュレス投票システムの導入により、現金不要でスムーズな舟券購入が可能になった。



ムーンライトシート

## イベント

—「ドッキドキ！ナイターペアボート」— 光り輝くナイター水面を現役レーサーと一緒に疾走できるペアボート試乗会が人気。ナイター場でしか堪能できないイベントである。



—池田浩二 選手— 愛知県出身のエース級レーサー。スタートの早さ、ウィリーモンキーと呼ばれるハイレベルなターンが売り。

2013年は、一流レーサーが出場する総理大臣杯やその年のNo. 1を決める賞金王決定戦で優勝し、同年の最優秀選手として表彰を受けた。また、最多賞金獲得選手を受賞、全国ボートレース記者クラブに加入している記者らの投票により、記者大賞にも選ばれ、3冠を達成した。

## 地元選手



# 探訪



## 平和島篇

**概要**：東京都大田区にある、1954年に開業した全国で19番目のボートレース場。当初は東京都が大森競走場という名称にて運営していたが、1955年から府中市の主催となり、その翌年に現在の名称になった。2014年末には最高峰のレース「賞金王決定戦競走」の開催が予定されており、同場での開催は3度目となる。

### 設備

2010年に従来場内施設だった東京テレシアターを改装した外向発売場「平和島劇場」をオープン。ここでは、他競走場の舟券を購入できる。2014年より1日最大発売場が8場（96レース）となり、全国の舟券発売場で最も多くのレースを発売している。キャッシュレス投票システムの導入で複数場の舟券購入が容易になった。

競走場は複合商業ビル、シネマコンプレックスやバッテリーセンターなどを含む「ビッグファン平和島」の敷地内にある。



### イベント

－平和島ご当地アイドル「つばさF L Y」－平和島から全国へ羽ばたくアイドルとして結成された5人組ユニット。平和島にてレースが開催される際は、場内でのライブイベントや吉本芸人を交えた舟券予想会を行って、ボートレース平和島を盛り上げている。



### 場内名物

－人気の「もつ煮込みライス」注文してからすぐに出来上がるのでレースの合間でも食べることができる。



### 地元選手

－浜野谷憲吾 選手－ 東京都出身、平和島でデビューした選手である。端正なルックスからは想像できない豪快なスピードターンが特徴で、漫画「モンキーターン」の主人公「波多野憲二」のモデルとして有名。操縦技術だけでなく、レベルの高いSGレースを戦うための整備能力も向上しており、関東のエースと呼ばれる。

